

類型

A

熊本県

むらかみ いさむ

村上 諫さん 87歳

花き生産者の特技と知識を生かした 伝統文化継承と世代間交流の場の提供。

花き生産者として地域社会に貢献

村上諫さんは、花き生産者（花き＝花の咲く草）として農業に従事していた頃から、ただ生産するだけではなく、「自分も花を生きたい。人に教えたい。人に伝えたい」という強い思いを持っていました。

40代で華道師範の免状を取得し、地域婦人会や老人ホームでの生花指導、県立高校華道部の講師など、地域や学校の行事の一つとしても定着しています。特に地域の小学校の学習活動や公民館の講座などで、花き生産者として花材を安価で提供しながら、地域の活性化に貢献しています。

芋掘り体験収穫後の昼食会も 地元の小学生の良き思い出に

花き生産の傍ら、活用しなくなった自分所有の農地を、「小学生が土と触れ合う場にしよう」と思い立ち、児童の野菜作り、指導の場として提供するとともに、自宅近くの畑にもさつま芋を植え、毎年秋に小学校6年生の「芋掘り体験」の場としても提供しています。収穫したお芋は、小学校の他学年へも配布し、生徒や保護者にもとても喜ばれています。収穫体験後には、



小学校での生花指導



さつま芋堀体験

生花教室の生徒が中心となって、村上さんの自宅で「さつま芋だご汁」、自家生産米のおにぎり、漬物などを準備して楽しい昼食会を開催します。そこは世代間交流の場となり、子供たちにとっても、小学校時代のよき思い出の一つとなっているようです。

生産するだけでなく、 人に教えたい、人に伝えたい

地域でも「優しいおじいちゃん」として、子供たちや多くの人たちに親しまれている村上さんは、「自分は運の良いことに、自身の特技や知識を生かした伝統文化の継承、世代間交流の場の創出活動に専念することが出来ました。華道文化の継承については、長男が受継いでくれたので、私は地域の子供たちへ伝えるという道を選ぶことができたのです。今後も自分が若くあるために、できる限り、今の活動を続けていきたい、そう考えています。